

濱田學兄よりの通信にてセイス老博士の西班牙旅行中なることを承知致し候ひしが、去る七日に二三日前に歸り來りたれば都合して遊びに來てはとの手紙をいたゞき前週火曜日に牛津に同先生を訪問致し申し候。鶴の如き瘦軀となつかしき溫容とは依然として昔日に異らず。京都のこと何くれと打ち語られ、内田博士の逝去については殊に哀愁を覺ゆなど、繰り返し／＼語られ候。クインスカレヂの食堂の正面、學生を下に、一段高き處に座を占めて十五世紀(?)以來その儘の光景と説明せられ候食卓に侍し、譬へ方なきゆかしさを覺え候はこよなき記念に候ひき。濱田學兄よりも紹介せられ候蒙古史の著者ホーオース老先生への紹介状も貰ひ候へば不日訪問して見たくと存じ居り候。

(藝文第十一卷第八號、大正九年八月)

匈牙利の夏の旅

プラハからウイン、ブダ・ペスト、都合好くばコンスタンチノープルまでと、鞆一つを携へてたゞ一人伯林アンハルト停車場に向つたのは、去年七月二十二日の朝であつた。伯林では左程にも思はなかつた暑さが、翌々日ウインに着いた時には、誰が數へたものか五十年目の暑さといふのになつて、小石混りの廣場の眞中に突き立つて居るマリア・テレサの像を仰ぎ見た時などは、目まひがする様に覺えた。

暑さには特に弱い自分の折角思ひ立つたこの見物の旅に、俄に募つて來た暑さをどんなに恨めしく思つたであら